

日越交流史研究の新局面：ベトナム語ローマ字表記をめぐって

著者	樫永 真佐夫
雑誌名	民博通信
巻	158
ページ	28-28
発行年	2017-09-29
URL	http://doi.org/10.15021/00008496

日越交流史研究の新局面 ——ベトナム語ローマ字表記をめぐる

ベトナムの「国語」

ベトナムの公用語はベトナム語であり、その正書法はクオックグー (quốc ngữ) と呼ばれるローマ字表記である。

歴史をさかのぼると、マジョリティのキン (京) 族が 10 世紀に中国からの独立国家を立てて以来、ホー・チ・ミンの独立宣言により 1945 年 9 月にベトナム民主共和国が成立するまで、ベトナムの歴代王朝はほぼ一貫して漢字・漢文を公文書記述に用いてきた。これに対し、植民地からの独立闘争を「無知との闘い」として位置づけたホー・チ・ミンらは、来たるべき宗主国フランスとの戦闘にそなえて急務であった国民の識字率向上のために、クオックグーをベトナム語の公文書の記述に採用した。

クオックグーというベトナム語を漢字表記すれば「国語」になる。この「語」は文字を意味することばである。つまり、ベトナムで「国語」とは、伝統ある漢字でも、漢字からの独自の派生文字チュノム (chữ nôm: 字喃) でもない。皮肉なことに、19 世紀後半にはじまるフランスによる植民地支配下で普及したローマ字表記のことなのである。

ベトナムでクオックグーがベトナム語の正書法として採用されるにいたった前近代からの歴史的経緯については、デフランシスによる研究 (DeFrancis 1977) が有名だが、近年、クオックグーに関する新しい研究の展開がベトナムでは注目を浴びている。

クオックグーの開発は 17 世紀にさかのぼる。ローマのイエズス会士アレクサンドル・ドゥ・ロードによる『アンナン語・ポ

ルトガル語・ラテン語辞典』(1651 年) におけるベトナム (安南) 語ローマ字表記こそ、記念すべきクオックグー成立の記念碑的出来事である。では、当時その表記システムの開発に、どのような人たちが、どのように関与したのか、そのミクロなプロセスがはじめて明らかにされてきた。すると、なんと日本人の協力者たちの姿がそこにあった。

追放された宣教師の行方

ここで一度ベトナムから離れて、豊臣秀吉や徳川家康が天下をとったころの日本の話をしよう。秀吉は、九州を平らげ天下を統一した 1587 年、バテレン追放令を出し宣教師追放に乗り出す。一方で海外貿易の奨励のために、倭寇を取り締まり 1592 年には朱印船貿易を開始した。

実はイエズス会をはじめとするカトリック教会にとって、日本はアジアにおける重要な布教拠点だった。しかし 1612 年の江戸幕府による禁教令以降、キリスト教徒への弾圧がますます激しくなった。ついにイエズス会は 1615 年にはベトナム中部に布教拠点を移す。

キリスト教布教に欠かせないのが現地における言葉の習得である。ヨーロッパ人のイエズス会宣教師のなかで最初にベトナム語会話を習得したのは、フランシスコ・ド・ピナ (1585-1625) とされる。ピナは 1611 年から 1617 年までマカオに学び、そこでジョアン・ツツ・ロドリゲス (1561-1633) から日本語ローマ字表記を習っていた (Đỗ 2008)。ロドリゲスは日本で秀吉や家康の知遇も受け、日本語文法書『日本語大文典』(1608) を完成させたイエズス会士であった。

ピナは 1617 年にベトナム中部ホイアンに渡ると、ベトナム語会話を習得し 1623 年までに体系的なベトナム語ローマ字表記法の作成に着手した。こうして完成したのが、上記ドゥ・ロードによる辞典で用いられたベトナム語ローマ字表記法である。すなわちクオックグーの祖である。

ホイアンには慶長年間 (1596-1615) に日本人の自治による日本町がすでにあった。ポルトガル人やイタリア人などの外国人も日本町の管理下にあった。1615 年から 1621 年の時期にそこに宣教師が 14 人來たが、うち 7 人がポルトガル人で 4 人が日本人と、日本人宣教師も多かったのである。

日本人宣教師は日本のセミナリオで漢文とラテン語を習得していた。したがって、ピナらポルトガル人宣教師がベトナム語を習得する際、ベトナム人と日本人の間で漢字による筆談、日本人とポルトガル人の間ではラテン語と日本語が用いられていた。

クオックグーでは現在でも、音節ごとに分かち書きがなされる。これは漢字と字喃でベトナム語を表記する際の分節にも対応しているのだが、このことはピナとベトナム人とのコミュニケーションの間に日本人が介在したからであった。日本人が各単語を、漢字や字喃の分節に基づき分解しその語義をピナらに解説したからである (福田 2016)。

こうしたクオックグー成立の舞台裏の研究が、ベトナム人研究者ドー・クワン・チン (Đỗ Quang Chính) やハノイ国家大学の福田康男によって近年明らかになってきた。日本とベトナムの文化交流史研究の新たな幕開けを予感させるとして、ベトナム歴史学でも注目されている。

【参考文献】

- DeFrancis, John 1977 *Colonialism and Language Policy in Vietnam*. Hague: Mouton Press.
Đỗ Quang Chính 2008 *Lịch sử chữ Quốc ngữ 1620-1659*, Nxb Tôn Giáo.
福田康男 2016 「ベトナム語ローマ字表記成立に深く関わった日本人」 <http://www.kilala.vn/ja/van-hoa-nhat/nguoi-nhat-va-qua-trinh-thiet-lap-phiên-am-tiếng-viet-bang-ky-tu-latin.html> (参照 2017-1-30)

文 樫永真佐夫

国立民族学博物館超域フィールド科学研究部教授。専門は文化人類学。著書に『黒タイ歌謡<ソン・チュー・ソン・サオ>——村のくらしと恋』(雄山閣 2013 年)、『黒タイ年代記<タイ・ブー・サック>』(雄山閣 2011 年)、『ベトナム 黒タイの祖先祭祀——家霊簿と系譜認識をめぐる民族誌』(風響社 2009 年) などがある。



2 万ドン紙幣の裏面にも印刷されているホイアンの「日本橋」。1593 年に日本人が建設 (伝)。幕府による鎖国で日本町は衰退したが、貿易港ホイアンはその後も発展した (2013 年 7 月、福田康男撮影)。